

# 富士山

須走口より

1993年5月20～21日

メンバー：武部 慎

5月19日 晴

平日に休めることになり、富士山にアタッした。夜9時頃東富士山荘に着き一年ぶりに髭のおやじさん（米山さん）に会い、山の状況を聞く。明日は計画通り久須志岳、明後日は成就ガ岳を滑ることに決めた。

5月20日 晴、曇、雪、雨、晴

ツェルト、シュラフカバー、羽毛服とザックには1ビバークの用意で出発する。富士山を見渡せる場所まで来ると、雪ははるかかなた上にあり夏道沿いに登り、六合目下（2450m）から夏道はずれ、雪の上を登る。一旦雪が切れ、2500mから雪がずっと続いているので、そこからシールにスキーアイゼン、シリアイゼンも付けて登りだした。3000m位までは快適に登る。この辺から腹が減ってほとんど一時間毎に休んではたくさん持ってきた行動食を食べる。単独行の一つの楽しみだと思う。登り始めた雪の末端や山中湖なども眼下に見え、良い気分である。（昨年一昨年とも天気が悪かった。）この辺から右の方へトラバース気味に登り夏道に近づく。小屋が高度差約100m毎にあり、良い目

印になる反面近くに見えながらなかなか近づかない。山頂までスキーアイゼンで行けるかと思ったが、だんだん雪が硬くなってきたためツボ足になり、やっぱりアイゼンを付けて登ることにした。平日なのに山頂には1パーティーいて彼らはテレビの撮影に来ていた。さっきから雲が北西から速く移動している。そんなにゆっくりもしてられず下山する。どこまでアイゼンで降りるかが問題である。登りの時よりも多少雪が柔らかくなっていることを期待して3700mでスキーに変えた。しかし、・・・。数m斜滑降して恐ろしさの為にしりもちをついて止まった。（シリアイゼンのおかげです。）胸ポケットにしまっていたアイススクリュウを取り出して手で雪面の上を回すと気持ち良く入っていく。それにストックをぶら下げセルフブレイを取ると一安心。これでシリアイゼンの爪が外れても大丈夫。ザックからピッケルを取りだし谷足の足場を作り谷スキーをはずす。スキーをブレイに付けて静かに立つ。山側のスキーもはずしブレイに付ける。ピッケルでバケツを掘り、ザックを置いてアイゼンを取り出す。アイゼンを付けスキーをザックに付けていると辺り一面が暗くなってきて雪となり視界の心配が出てきた。気温も急激に下がっているのがわかる。堅い雪面をどんどん降りる。降りても降りても遠い。雪の中にアイゼンだけでなく靴も潜るようになって、念のためしばらくアイゼンで下る。場所によって雪の堅さが異なり、見た目では判断

できないからだ。3500mでスキーにはきかえる。まだ視界が効くうちに滑らないと、歩いたら何時に下界に着けるかわからない。ルートを間違えないようにトラバースするところに注意して急ぐ。すると・・・2番目に怖い物、雷が鳴り出す。ただひたすらももが痛いのをこらえて滑る。まだ3000mを超えている。ターンする毎にかけ声をかけて必至に滑る。2600m位から樹林の脇を滑るようになると安心してきた。2500mで滑降終了。登りの時と違うところだが、こっちの方が樹林の隣だから安心。まだ雷は鳴っているけど南の方に遠ざかっているので心配なし。助かった。あとは須走り下山道をどンドン歩く。

テントに戻るとポツリポツリときて東富士山荘に入ると夕立になった。いいときに帰ってきて良かった。山荘では「昨年の瓶ビールだよ。」って米山さんからビールをいただいた。うまかった。

5月21日 晴、曇、霧

昨日の疲れのために寝坊し物音で目が覚めたら3時40分だった。急いで朝飯を食べていると物音の人はもう出発するときだった。「スキーですか?」「いいえ。よく登るんですか?」「きのうも登りました。」・・・テントの内と外で簡単な挨拶でお互いを確かめ合う。

昨日と同じように夏道のルートをとる。昨日の朝よりも一段と雪は少なくなっているのが見える。登り出すと意

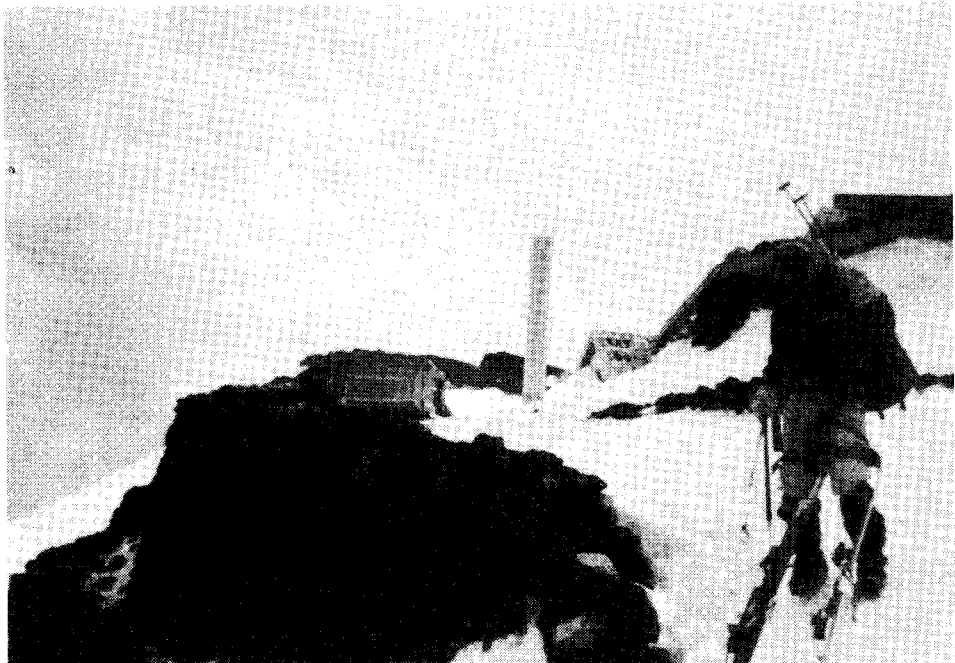
外と快調でところどころに自分のシュプールを見つけては昨日の自分を想いだし一人で満足していた。また、登りのトレースを見つけると一人で登っている気がなくなり不思議な気がした。今日も良く休みよく食べた。今日は風が強く雪が昨日よりも堅い。アイゼンにはきかえるのも昨日よりも早い。多少は高度に慣れたかなと思いつつもこのアイゼン登高が一番大変。山頂直下の鳥居へはブルーアイスでアイゼンも1mm位しか立たない。そこで久須志岳の南の祠へと向かう。昨日に続き今日もお釜に到着。今日は休む暇もなく成就岳へ向かう。昨日の失敗があり今日は昨日よりも堅い雪なので、いったい何mまでアイゼンで降りるのだろうという不安があった。成就岳に着きザックを置いて偵察する。北面のルンゼ(米山さんの推薦したルート)はアイスバーンで3000mはアイゼンで下る必要があった。南面の広い谷はアイゼンの感触で格段に柔らかい。(それでも堅いが。)そこでこっちを選んだ。ただ、ルンゼからは全滑降ルートが見えるのに対し、こっちは尾根で見えないばかりかかなりのトラバースを要し、しかも雪が切れているところが2ヶ所ありトラバースの仕方によっては2回スキーを脱ぐ必要がある。

3650mから滑り出す。3回ターンすると斜度、雪質ともに緩くなってきて快適にターンをする。1回こけたがシリアイゼンで止まる。標高差約600mの快適な斜面はなかなか滑り応えがあった。左側の岩が出ている尾

根が消えるところでトラバースに入り滑れる所まで滑った。下部はもうとっくに雲がかかっている見えない。自分としては上から見たときの1回目の雪が切れているところはトラバースのときに通過できたと思っていた。あと1回渡れば良いと思っていた。1回スキーを脱ぎ砂と小石が潜るところをザクザクと歩く。もう、すぐ下から雲なので少し待っていると雲が切れそうになってきたので視界の効くところまで滑る。5分待つと雲が切れてきた。なんと・・・もう下には雪がない！いたいここはどこ？前方に見える小尾根を乗っ越すにはガレ場をかなり歩く必要があり、落石を考えると不安な為シールを付けて登り返すことに決めた。小さな尾根を越し大きな尾根の上に来てまだ登るのかなと思っていると「オ、

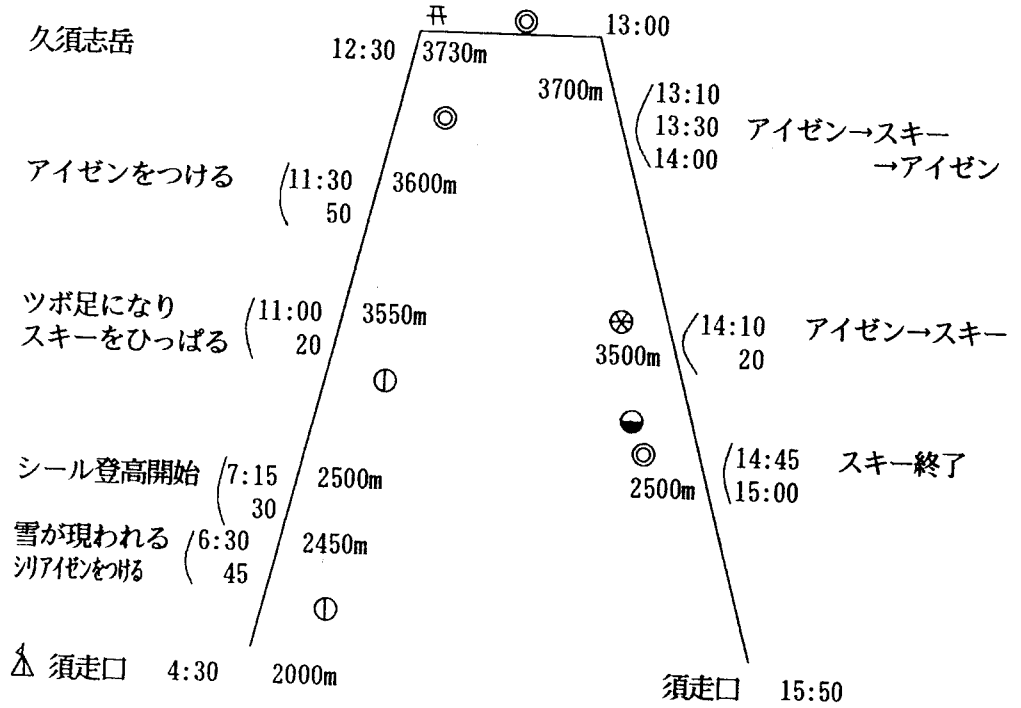
小屋が見える！」見覚えのある雪と地肌でやっと滑れると思った。もう3時であり雪はクラストしてきている。（ここはブルドーザ道の為に路岩が出ていた。）凸凹のクラストしかけた雪を滑る。3000m位になると雪も適度な堅さになりホッとしてくる。2800m位から雲に入り雲の中から朝の人に会い挨拶を交わす。僕はスキーなのでルートが違うから別れた。今日は朝の登り口を目指して雲の中を滑る。雪の下は水が流れているところもあり注意を要する。

須走り下山道を下っていると下から登って来る人いた。それはシリアイゼンを設計した大貫さんであり、挨拶すると僕のシリアイゼンを新しい物に替えてくれた。



富士山頂にて（武部）

# 5月20日



# 5月21日

